

「明るく 楽しい 地域に誇れる学校」

# 学校だより



学校教育目標 ○仲良く力を合わせる子 ○明るく元気な子 ○進んで学習する子  
小鹿野町立小鹿野小学校 9号 令和6年1月9日 発行

## 利他の心

新年明けましておめでとうございます。保護者・地域の皆様におかれましては、輝かしい新年を迎えられたことと思います。昨年中は大変お世話になりました。本年も、本校への変わりぬご支援をいただきますようお願い申し上げます。

年末には近年にない寒波がやってきて、例年になく寒い冬となっています。また、新型コロナやインフルエンザも未だ収束が見えず新たな流行も心配されます。しかし、そのような中でも子どもたちは元気に登校し、三学期のスタートを切ることができました。



「心変われば行動が変わる 行動が変われば習慣が変わる

習慣が変われば人格が変わる 人格が変われば運命が変わる」

これは、アメリカの哲学者ウィリアム・ジェームスの言葉ですが、あの松井秀喜選手が石川星陵高校時代の監督である山下智茂氏から贈られた言葉として知られています。松井選手は、夢を実現するために、この言葉を大切にしていたそうです。

また、プロ野球界の名将である故野村克也氏も監督時代に指導者としてこの言葉を大切にしていたそうです。ヤクルトの監督時代はミーティングの大半を人間教育に費やしたということです。「心が変われば選手の野球観が変わり、その選手のプレーが変わり、高く評価され、ひいてはチームの優勝へとつながることになる。」と言っています。野球をすることの目的は、「野球を通じて、世のため人のために貢献すること」であると説いたそうです。選手に「志」を持たせ、野球に対する取り組み方を根底から変えさせることで、ヤクルトを常勝チームに育てあげたわけです。プロ野球選手ですから、ほとんどが夢を叶えられた人たちばかりです。しかし、そこで挫折し、目的意識を失って伸び悩んでいる選手たちに、自分以外の誰かのために役に立つという新たな目的を持たせたということです。

子どもたちに夢や志を持たせることは大切です。日本の代表的な企業経営者である稲盛和夫氏は、「利他の心」を大切に、京セラという会社を一代で大企業に育て上げました。「利己」とは、自分だけの利益を優先するという考え方です。それに対して「利他」とは、他人をよくしてあげようという優しい思いやりのある考え方です。人のために役に立とうとする気持ちが多くの人の心に届き、支持を得た結果であると思います。大谷翔平選手から届いたグローブも「利他の心」だと思っています。本校の子どもたちにも、利他の心を持った優しく思いやりのある人に育ててほしいと願っています。今後も、保護者や地域の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。



【校長：篠田禎生】

